

(別添)

第二地銀協地銀の平成 28 年度中間決算の概要について

平成 28 年 12 月 15 日
一般社団法人 第二地方銀行協会

会員行の平成 28 年度中間決算（単体）の概要は以下のとおり。
（注）計数は平成 28 年 9 月末時点の会員行 41 行ベース（特記ある場合を除く）。

1. 損益概況

会員行の平成 28 年度中間決算は、業務純益、経常利益および中間純利益のいずれも減益となった。

業務純益は、国債等債券関係益が増加したものの、資金利益および役務取引等利益の減少により、1,220 億円と前年同期比△125 億円、△9.3%の減益となった。

経常利益は、貸出金償却および個別貸倒引当金繰入額が減少したものの、株式等関係益および貸倒引当金戻入益の減少ならびに業務純益の減益を受け、1,284 億円と同△305 億円、△19.2%の減益となった。

中間純利益は、954 億円と同△168 億円、△15.0%の減益となった。

2. 業務純益の状況

(1) 資金利益（4,218 億円、前年同期比△144 億円、△3.3%）

資金利益は、前年同期比△144 億円、△3.3%減少して、4,218 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金（平残）が増加したものの、預貸金粗利鞘の縮小により、同△117 億円、△3.5%減少して、3,251 億円となった。

また、有価証券利息配当金は、同△21 億円、△2.1%減少して、976 億円となった。

(2) 役務取引等利益（339 億円、同△60 億円、△15.0%）

役務取引等利益は、投信窓販業務手数料等の減少により、同△60 億円、△15.0%減少して、339 億円となった。

(3) その他業務利益（264 億円、同+146 億円、+123.7%）

その他業務利益は、国債等債券関係益等の増加により、同+146 億円、+123.7%増加して、264 億円となった。

(4) 経費（3,580 億円、同+12 億円、+0.3%）

経費は、3,580 億円と横ばいとなった。

3. 経常利益および中間純利益の状況

経常利益は、株式等関係益等の減少および業務純益の減益を受け、1,284 億円と前年同期比△305 億円、△19.2%となり、中間純利益は、954 億円と同△168 億円、△15.0%の減益となった。

4. 与信関係費用の状況

与信関係費用は、前年同期比+59 億円、+655.6%増加して、68 億円となった。

また、金融再生法開示債権（破産更生等債権、危険債権、要管理債権の合計）は、前年度末比△312 億円、△2.6%減少して、1兆1,772 億円となった。開示債権比率は、同△0.09%ポイント低下し、2.33%となった。

5. 単体自己資本比率（国内基準40行ベース）

単体自己資本比率は、リスク・アセットの増加により、前年度末比△0.02%ポイント低下し、9.68%となった。

6. 預金および貸出金（末残）

(1) 預金（64兆9,871億円）

預金（末残）は、前年同期末比+1兆831 億円、+1.7%増加して、64兆9,871 億円となった。預金者別にみると、要求払預金を中心に一般法人預金および個人預金はともに増加した。

(2) 貸出金（49兆7,867億円）

貸出金（末残）は、前年同期末比+1兆6,244 億円、+3.4%増加して、49兆7,867 億円となった。貸出先別にみると、中小企業向けを中心とした法人向け貸出、個人向けおよび地方公共団体向けのいずれも増加した。

7. 平成28年度通期業績予想（業績予想を公表している40行ベース）

平成28年度通期業績については、経常利益は増益予想が4行、減益予想が36行、当期純利益は増益予想が5行、減益予想が35行である。

	増益予想	減益予想
経常利益	4行	36行
当期純利益	5行	35行

以 上